

■山路愛山 史論家、評論家。明治後期の社会の硬直化に、“平民主義”と称し、アカデミズムと対立して論壇を主導。

やまじあいざん

禁門の変・・・1864＝ 江戸で幕府の天文方見習いの子に生まれる。

薩長同盟・・・1866＝ 2歳：母が死去。

明治維新・・・1868＝ 4歳：

戊辰戦争終・・・1869＝ 5歳：父が出奔し、家督を継ぐが、生活はどん底に転落する。祖父母と静岡に無禄移住。

学問のすすめ1872＝ 8歳：壕頭学校(私立小学校)に入学。函館五稜郭で新政権に抗戦していた父が発見され、静岡に帰ってきて、

明治6年政変 1873＝ 9歳：

佐賀の乱・・・1874＝10歳：父から手習いと英語を学び、

外祖母の縁で田口卯吉を紹介されて大きな影響を受け、敗残者の悲哀から人権運動を志すようになる。

琉球処分・・・1879＝15歳：小学助教となり、

明治14年政変1881＝17歳：祖父死去。生活のため県庁警務課の雇となる。

新体詩抄・・・1882＝18歳：県庁の小吏・小掌教員たちと回覧雑誌(呉山一峰)をつくる。

岩倉具視没・・・1883＝19歳：静岡英学校で英語を学ぶ。

内閣発足・・・1885＝21歳： 生の転換を求めて、日本メソヂスト静岡教会の英語会に出席するうち、キリスト教に入信。

初の対等条約1888＝24歳：父死去。職を辞し、祖母を伴って上京し、東洋英和学校に入学。同校の寄宿舎に祖母とともに入る。

帝国憲法発布1889＝25歳：

足尾鉋毒始・・・1891＝27歳： メソヂスト三教派の機関紙{護教}が創刊され、その主筆に迎えられる。

大本教・・・1892＝28歳： *徳富蘇峰の勧め民友社に入り、{国民之友}{国民新聞}に執筆。貧しい生活の中で「西国立志編」に感銘を受け、早くから独学自活の道を歩んだ愛山の文筆家としての活動は民友社時代から本格化する。

郡司千島探検1893＝29歳：この年、結婚。 北村透谷との間の有名な“人生相渉論争”が開始さる。「荻生徂来」を処女出版。

日清戦争始・・・1894＝30歳：

八幡製鉄始・・・1897＝33歳： 民友社と{護教}主筆を退いて、毛利家編集所に入り、「防長回天史」の編集に従事。

Bushidou・・・1899＝35歳： *{信濃毎日新聞}の主筆に迎えられる。

ビアノ国産化・・・1900＝36歳：

社会の官僚制化の進行とロシアの進出に対する批判・警戒を主調とする論陣を張り、主筆を辞して後は、極東情勢の緊迫化の中で“帝国主義”を唱えてロシアとの対決を説く一方、国内の財閥の台頭に抗すべく“国家社会主義”を提唱した。

日比谷公園・・・1903＝39歳： *以降14年にわたって月刊{独立評論}を刊行。そのころ一時海老名弾正の自由主義に共鳴。

日露戦争終・・・1905＝41歳： 斯波貞吉、中村太八郎らと国家社会党を結成し、家族国家論を基礎とした社会改良を唱え、

満鉄発足・・・1906＝42歳： 普選運動や東京市電車賃値上げ反対運動を推進した。

アヲキ創刊・・・1908＝44歳：「現代日本教会史論」、

伊藤博文暗殺1909＝45歳：

明治天皇没・・・1912＝48歳：

大正政変・・・1913＝49歳：未完の「日本人民史」ほか、史論が多い。

晩年は引き続き多数の時事論文を記すかたわら、日本民族の政治的能力を確認するため日本人種論の研究に進んだが、

ロシア革命・・・1917＝53歳： 病没した。